

快樂

自在

・吾道眼執持・、・得五法一者・



主圖版① 「快樂・自在」「・吾道眼執持・、・得五法一者・」

図版② 原寸図版



図版③
「題簽」

『佛說佛名經殘卷』は僅か三紙（一
紙28行）であり、前後は切断されてい
る。卷止めに「唐初人寫佛說佛名經殘

卷、敦煌石室本、乙丑夏秋重裝古舊記」と見事な筆致の題簽がある（図版③）。
10数年前香港の友人が、もたらしてくれた

れた数種の敦煌写経の一である。前回
の写経は、盛唐の書風を示していたが、
今回の佛說佛名經はやや六朝の書風を
示している。起筆はどっしりと力強く、
送筆も直線的に右上がりで、転折は一
呼吸して肩を落とし下方に運んでいる。
まさに北魏体の楷書そのままの運筆で
ある。また珍しいことに佛名の間に小
字の注記が書かれている。18ミリほど
行間を2行に分けて5行にわたり小さ
な楷書で130余字ほどである（図版②）。

この欄に関するご批評、ご意見、ご
希望、ご質問などをお聞かせください。
私宛に直接メールで、また編集部宛に
お送りいただければ幸いです。
伊藤滋 メールアドレス
mokkei@galaxy.ocn.ne.jp

「唐・佛說佛名經殘卷⑥」

8世紀頃 伝・燉煌出土

佛名よりも稍伸びやかな筆勢であるが、
六朝風の趣を示している。題簽に書か
れているように初唐の作でなかろうか。

書道芸術院

平成の群像 (2016)



平成24年（2012年）11月 個展「鐵壁」

97×180cm

依岡紫峰



等についても交流しあい、大きく学び合うことができました。

蕪湖市の鏡湖畔に建てられた「高知・蕪湖友好会館」は、友好のシンボルとして存在し、交流書展も開催されました。安徽省の書法家の先生方とも友好が深まり、先生方から贈られた書作品は私の宝物として大切に保存しています。

次に、アメリカ・フレスノ市民の皆さんとの交流も心に残っています。

現在、書展は、世界各国で開催されていて、国境を越えた文化芸術展となっています。

私の細やかな「書を通しての国際交流」について実践を述べてみます。

まず、日中友好書道交流は、日中和平条約締結以前から行われていました。訪中の車中で、条約締結のニュースが流れ、感慨深く聞いたことを鮮明に覚えています。

私の中国訪問は、10回以上になります

が、「高知県日中友好書道協会と中国安徽蕪湖書法家協会」との交流は1985から始まっています。

2年に1回相互交流と日中友好書道を開催し、昨年は第15回展を実施しました。相互訪問の際は、実技交流を行い技法を見交交流では、両国の書道界の現状や歴史

毛筆用具などは、日本から準備持参し60余名の出席でした。

書道セミナーは、大学の2206号室で行われ、大学の先生、学生、市民の皆さん方初めて持つ筆で、白い半紙に墨書する感動が講師の私たちにも伝わってきました。「平和」を課題にして書いた後で、書きたい文字のリクエストにより、自分の名前を日本文字で練習し、大喜びして持ち帰りました。

感想文では、

○日本の文字を使って自分の名前の書き方を習った。本当に楽しかった。
○実際に日本の書道が体験でき、完成品を持ち帰れてうれしかった。

など、参加者全員から感想文が寄せられ、「書と国際交流」の意義を深くかみしめたセミナーでした。

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

第69回書道芸術院展 無鑑査・一般公募審査終了

昨年12月中旬搬入された第69回書道芸術院展・一般公募の鑑別・審査が1月10・11日、共和国会館にて当番審査員68名、審査事務委員および審査部、総務部など担当委員96名、計164名体制で行われ、各賞が決定した。

一般公募は約1割減となり総入賞比率は60%と変わりなく適用したが準特選・佳作は出品減に伴い約1割減とした。無鑑査は微減で総入賞比率は40%と変わらず、院賞・毎日新聞社賞・特選はほぼ前年並みとして決定した。初10日に審査はすべて終了し、漢字部・現代詩文書部は2日目に事務処理を続行して終了した。

審査会員・審査会員候補作については1月29日書類搬入、2月8日都美作品搬入、9・10両日特別賞選考を行う予定である。

現代の書新春展 盛況の裡終了

1月5日から11日まで銀座和光、セントラルミュージアム銀座にて開催された「現代の書新春展」今息づく墨の華!!二展は連日多くの観客が訪れ、ギャラリートークや席上揮毫などの催

しもあり盛況裡に開催された。

(辻元担当)では多くの観客が詰め掛け、司会の丸尾鑑使さんの進行よろしくあつという間の1時間であった。作品図録などへのサイン会も行われた。

銀座画廊美術館でのチャリティー展も多くの観客が詰め掛け売り上げも予想を超える盛況であった。

銀座画廊美術館でのチャリティー展も多くの観客が詰め掛け売り上げも予想を超える盛況であった。

余白を生かした前衛書2点をそれぞれ発表、本院の存在をいかんなく発揮された。この企画展は当面来年度まで継続されることになつており、来年1月の本院出品者は漢字部前田龍雲、現代詩文書部尾形澄神、篆刻刻字部大沼樵峰の各氏に決定している。健闘を期待したい。



作品解説の様子

第47回現代女流書100人展開催

1月21日より27日まで日本橋高島屋にて100人展および新進作家展も併催され、21日には出品者を囲んで祝賀会も

賑やかに開催された。

(本院関係出品者)

香川倫子・下谷洋子・高田春来・平川峰子・小池謙舟・齊藤理舟・砂本杏花・山田梓江・小林琴水・崎井恵風・大井美津江・北村白疏・塚越紅苑

新進作家展 松村くに子



TOKYO 書 2016 出品の3人



女流展出品者と

TOKYO 書 2016 公募団体の今

東京都美術館改修以来開催されている表記展は本年4回目を迎え、本院からは漢字部倉林紅瑠の3氏が一人10mの壁面に挑んだ。18団体から38名の出品があり、それの中堅精銳作家があり、それの中堅精銳作家が大

金剛峯寺代表役員(山口文章宗務総長公室長ほか2名)が新年挨拶に本院事務所までお出でいただき護摩供養礼などを拝領した。

開創1200年記念事業として全国の書家おり、現在作品集の編集を鋭意進行中で、今夏までは献書作品展開催も含め事業を開催される予定と伺った。

昨年50回記念大会を催した高野山競書大会は本年51回展を迎えて、鬼頭墨喫審査長を中心に開催に向け諸準備が進行中である。学生と一般部も半紙での出品で5月中旬締切。多数のご出品をお願いしたい。

作を発表した。

名越氏は銀色の彩色紙に隸書行4字

6行の大作1点、勝山氏は2×8尺3連、横形式2段構成の2点、倉林氏は

余白を生かした前衛書2点をそれぞれ発表、本院の存在をいかんなく発揮された。この企画展は当面来年度まで継続されることになつており、来年1月の本院出品者は漢字部前田龍雲、現代詩文書部尾形澄神、篆刻刻字部大沼樵峰の各氏に決定している。健闘を期待したい。

高野山金剛峯寺役員來院

お詫び 前号毎日書道展新会員に鈴木承琳さん(近詩)記載漏れでした。
訂正追加いたします。

漢字(五)

竹本龍汀

かな(五)

小島孝予



立て、行間余
白の美しさと
迫力ある動き
を出した。

現代の書は多種多様で変化に富んでいる。線がスッキリして流れが美しく、余白の美しいもの、波い線で変化に富み濃淡がハッキリして柱が立ったもの、滲み掠れを多用し疎密と質量感でバランスを取ったもの等々、学ぶべき点が多い。小字数、多字数、紙の規格によって表現は様々だが、今回は多字数での表現で特に気をつけていることを述べてみたい。○スピード感、シャープ感、抑揚等、書く前に運筆のリズムをイメージする。○イメージしたりズムに乗って字形を自然にデフォルメする。○薦が絡むようにどんなに激しく変化して

も脈が切れないでしっかり柱が立つようにする。○変化と統一を図るために変化(サビ・山場)の有効な場所を考えバランスをとる。○墨継ぎ、字群をくつきりさせメリハリを付けるか、ゆったりさせるか表現意図を明確にする。

今回は2点とも2×6の作

品です。右は墨継ぎ、山場を分散し、山場に直線と斜線、ゆったりとした曲線を使い、全体的にゆったりとした空気感と重量感を出した。左は墨

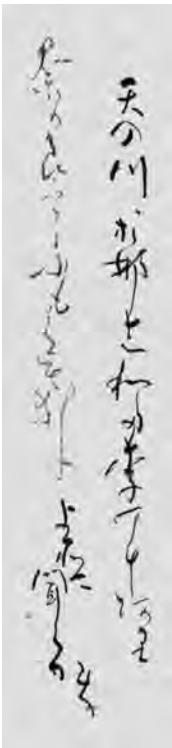
継ぎ、字群を強調し、山場に伸びのある線を使いスピードに書いた。柱をしつかり

来年、書道芸術院展は記念すべき第70回を迎える。私が玉松会展も第50回の大きな節目を迎える。私は第14回展で、右も左も全くわからず師の指導のもと、無我夢中で書いた。初めてお目にかかる永井幸子先生に、「ご挨拶をさせて頂いた時の全身が震える」などの緊張感は、今も鮮明に心に焼きついている。

当時のかな書全体の書風は淡墨が主流であり、「淡い墨をまづ筆に含ませ、色加減をみながら少し墨をとり、次に濃い墨をつけて書き出していく」——この濃淡の加減が非常に難しく、師に何度も叱られ大変苦労した。あれから35年、いつの頃からか淡墨作品から濃墨作品へと移行していく。「古典の学び」はいつの時代も変わらず基礎とな

りながらも、紙や墨の色、表現の仕方は時代と共に変化し続けているようだ。特に公募作品は、「紙は白、縦の二行書き」でインパクトの強い作品が主流であったのが、ここ数年前から「料紙で散らし書き」、インパクトの強さよりも「かならしい流麗な作品」が増えている。

昨年の玉松会展で、評論家の麻生泰久先生から「上手な字が必ずしも心を打つ作品とは言えない。いかに文字の中に情感を込められるか、景色を想像し、作者の思いにどれだけ近づいていくか、そういう思いを込めて作品を書いていく中に、いのちが吹き込まれていく」と、ご教示下さった。このような真摯な心で、一つ一つの作品を書き合っているだろうかとふり返ると、自分の甘さ、未熟さを痛感する。そのことを糧とし日々の精進を重ね、昨年の自分よりほんの少しでも成長できた自分が感じられるよう希望をもって歩みたい。



竹本龍汀書

平成27年 第67回毎日書道展出品作

小島孝予書

21世紀の書

—私の主張—

時代と共に変化していく中で

現代の書 新春展

今いきづく墨の華

(2016)

和光ホール28人展 2016年1月5日(火)～11日(月祝) 銀座・和光本館6階

セントラル会場100人展 2016年1月5日(火)～11日(月祝) セントラルミュージアム銀座

主催：毎日新聞社・(一財)毎日書道会

〈和光ホール28人展〉

干支文字



「大久保白村の句」

辻元大雲



125×96cm

干支文字



「たそがれの菊」 宮澤賢治

下谷洋子



133×62cm

「雲は」「枕草子」

下谷洋子



54×59cm

干支文字



浜谷芳仙



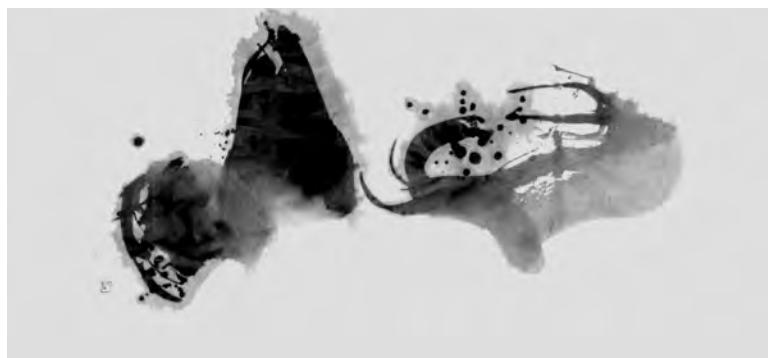
「仁」

60×175cm

干支文字



村野大仙



「命」

59×127cm

干支文字



「心象・修羅＝前奏」宮澤賢治「春と修羅」

飯高和子



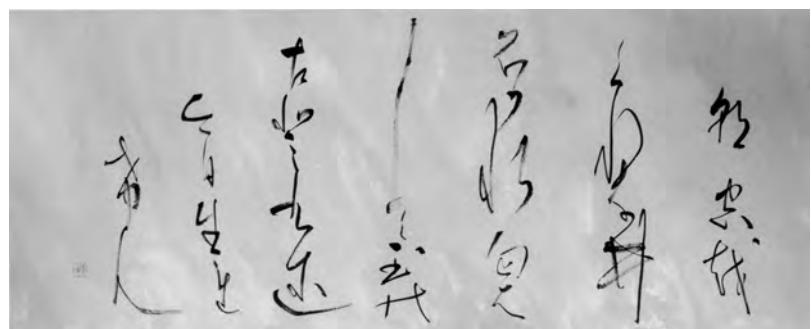
175×55cm

〈セントラル会場100人展〉

干支文字



石井明子



「比庵のうた」清水比庵『比庵歌・書・画』

60×149cm

干支文字



大野祥雲



「念」

92×121cm

干支文字



小竹石雲



「瑞雲」自作

67×152cm

干支文字



後藤
大峰

「積水」王維

60×70cm

干支文字



最首翠風

「富士玲瓏」自作

87×44cm×2

干支文字



「命」



小林
琴水

121×90cm

干支文字



干支文字



砂本杏花

「長谷川櫻の句「白牡丹」」句集『果実』

91×122cm

「下北半島」『あらめく全国「半島と岬」の詩』藤倉一郎

坂本素雪



183×61cm

干支文字



畑中弄石

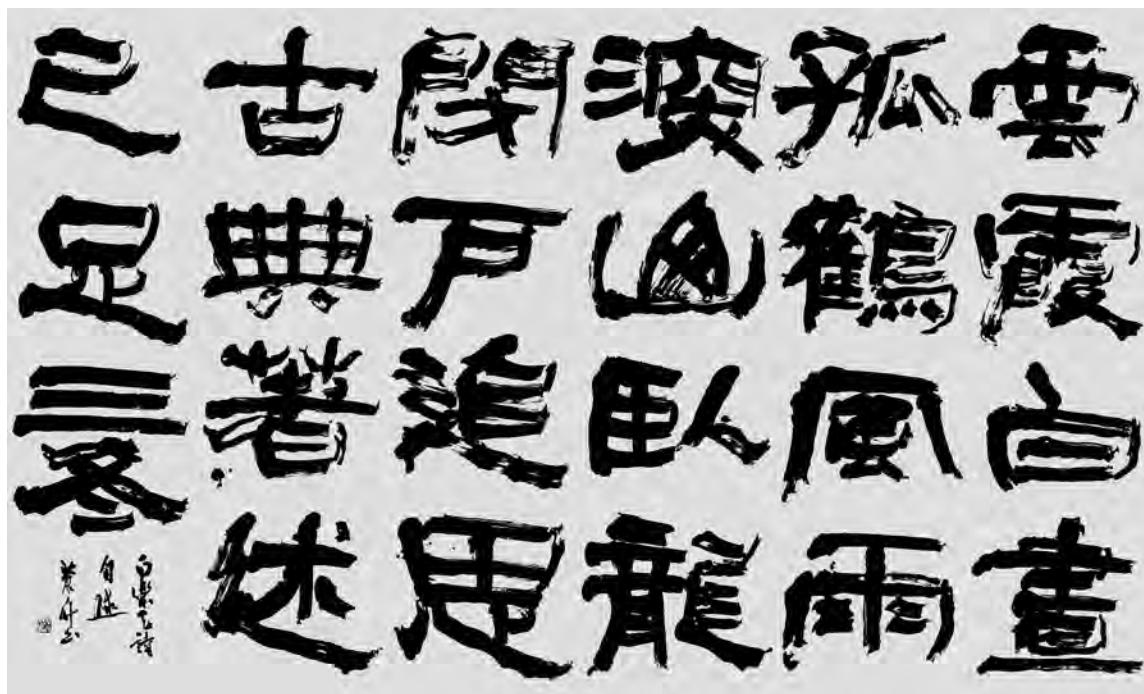


「氷像」『北海道の一句』川島千枝

91×121cm

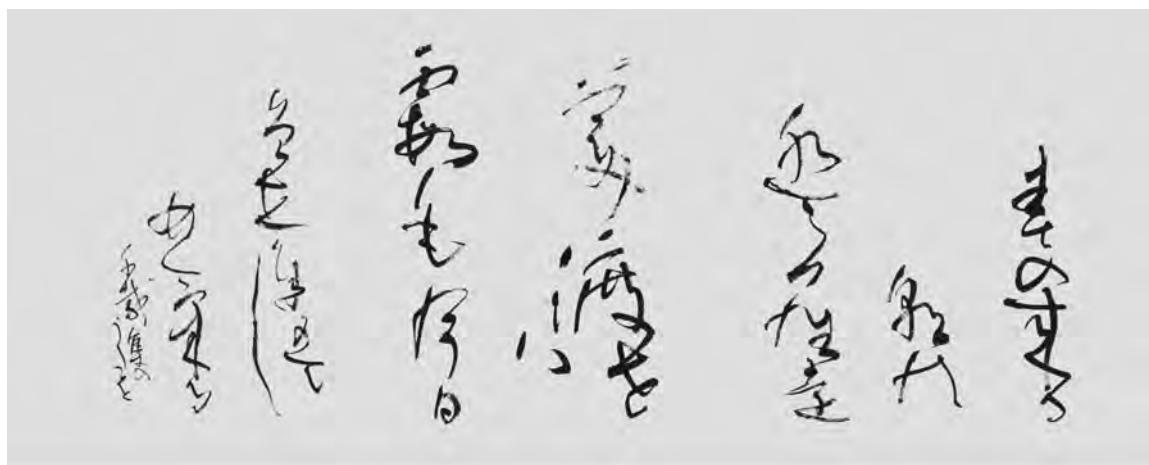
TOKYO 書
2016
公募団体の今

<日 時> 平成28年1月4日(月)～16日(土)
<場 所> 東京都美術館(上野公園)
公募展示室 ロビー階 第1・第2
<主 催> 東京都美術館
(公益財団法人東京都歴史文化財団)



名 越 蒼 竹 「白楽天詩自述」

359.5×608.8cm



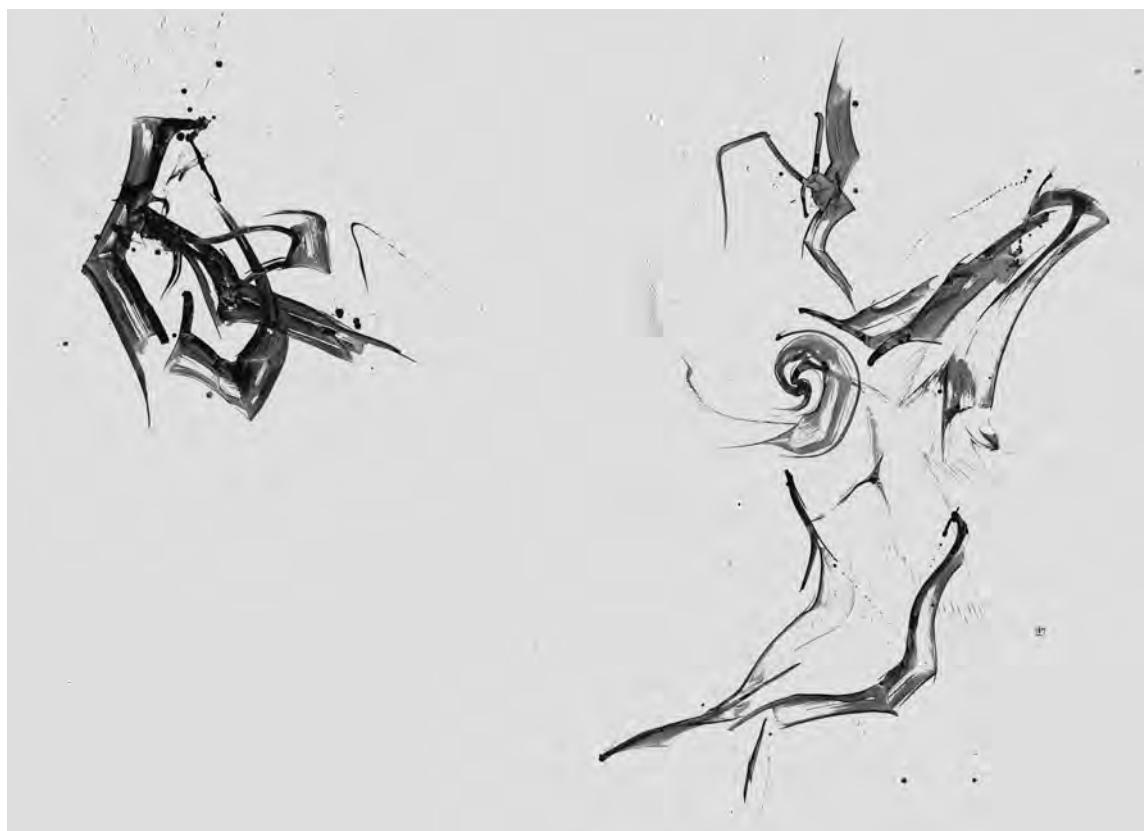
勝山初美「春のくる」

上 92.4×228.8／下53×228.8cm



230
×
53
cm
×
3

勝山初美「夕昏れて」



倉林紅瑠「瑠春」

242×334cm



倉林紅瑠「羅による」

242×272cm

書譜（唐・孫過庭）②

〈解説〉書譜は、唐代の草書の中で王羲之の書法を継承し、さらにその書法を発展させたものとして尊重されている。字形は均衡が保たれ、運筆は活動的で緩急抑揚の変化が強い。線質は筆の弾力に富み、強弱・大小・潤渴・肥瘦など多様な線が交錯し、紙面に変化を

もたせている。また、特色ある筆使いとして節筆と断筆がある。節筆は紙の折り目に筆が当たってできるものであり、断筆は転折の部分で一度筆を離し、改めて打ちこんだように見える用筆である。どちらも草書の筆勢の弛みを防ぐ役割を果たしている。

（編集部）

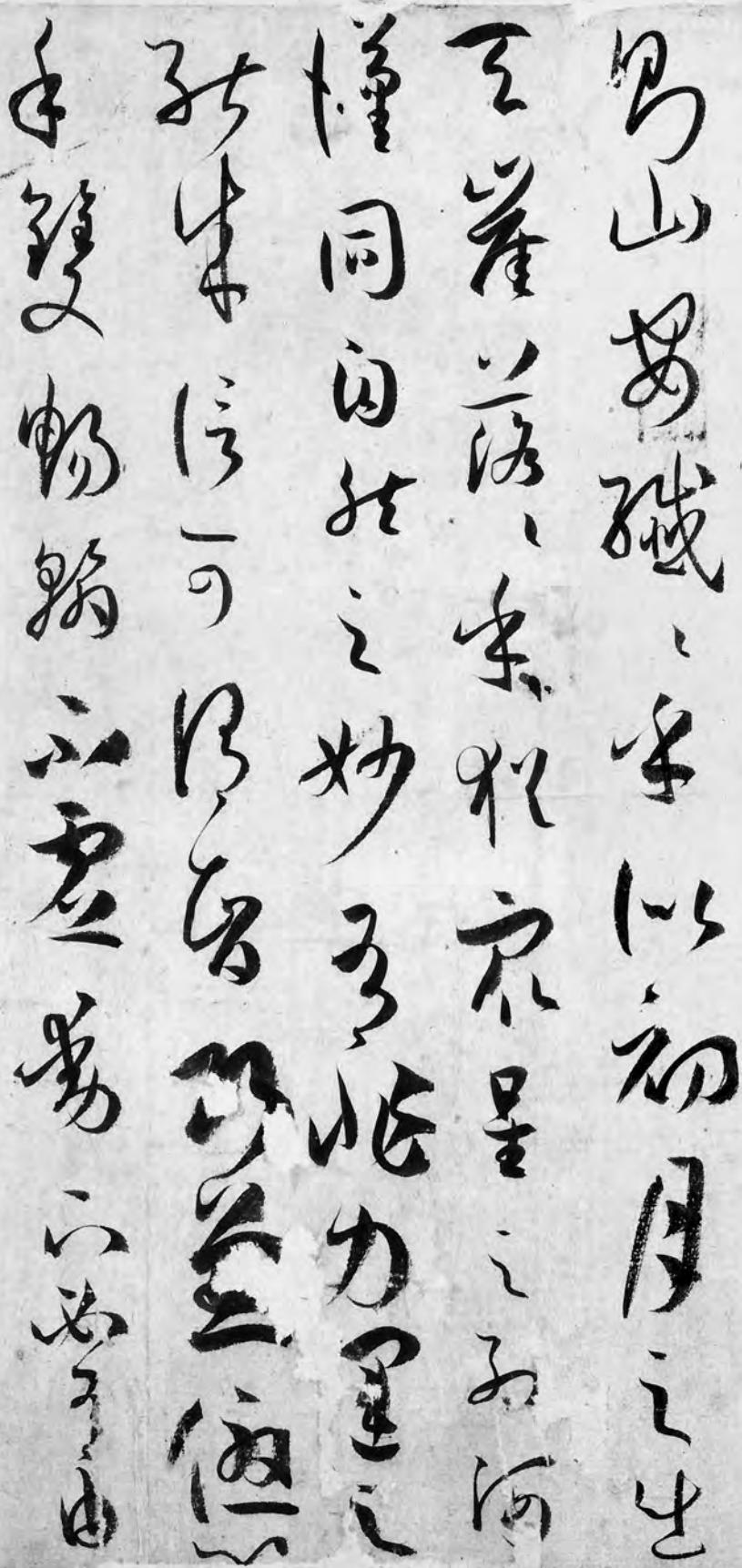
漢字研究部臨書課題

II（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）当該古典の左記掲載部分以外也可。

特別研究部臨書課題

（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）

※落款を必ず入れる
署名、もしくは〇〇臨
(押印のみ也可)



(85%縮小)

則山安。纖々乎似初月之出／天崖。落々乎猶衆星之河／漢。同自然之妙有。非力運之／能成。信可謂智巧兼優。心／手雙暢。翰不虛動。下必有由。

本阿弥切

ほんあみぎれ
本阿弥切（云小野道風）②

よみ

いのちにもまさりて
をしくあるものははてぬゆめの
さむるなりけり

ふるみちのつらき

あづさゆみひけばもとすゑ我がかたた
によることこそまされこひしきことは

あまみまのつま

我こひはゆくへもしらずはても
なしあふをかぎりとおもふばかりぞ

みつね

解説 本阿弥切は字粒は小さいながら、
筆の弾力を最大限に利用した変幻自在で
リズミカルな筆線を用いて書写されてい
る。平安時代特有の優美さを湛えると
ともに逞しさをみせてている。

料紙は中国から渡ってきた唐紙を用
い、白、縹（薄い藍色）・茶などの具引き（貝殻を焼いたものの粉末の胡粉、またはこれに顔料を加えたものを刷毛で紙面に塗る引き染めのこと）を施した上に、雲母で唐草・雲鶴・夾竹桃などの文様を擱り出したものである。縦16.7cm、横28cmの小さな料紙で、巻第16を除くと、各巻ごとに同じ色・同じ文様で統一されているところが本阿弥切の特徴である。
(※掲載図版は原寸)

（編集部）

かな研究部
臨書課題

（半紙普通判（料紙可）・縦長に使用）
別紙を裁断して貼付也可。半綾紙は半紙サイズに切って使用のこと。
上記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。（全縫も可）

特別研究部
臨書課題

（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）
上記の掲載以外も可。



習い方解説 (五)

大野祥雲

指天射魚
(天を指して魚を射る)
(説苑)

説苑



指天射魚 よみ（天を指して魚を射る）

書体＝自由

「射」偏をすっかり書き、余白をとって、旁を伸びやかに。日の中も白を生かす。

「天」第一の線をそっと置き、ずっと離して二画を切り込む。斜画は力強く突き出し、弧を描いて最終画で収める。周囲の白も多く、画数は少ないが、他の3字に見劣りしない構えになった。

「魚」始筆から終筆まで氣脈貫通。旁のふところを広く。

「魚」この文字も筆を立て、鋭い線で紙に切り込んでいく。各所にある白と最終画のれんかの動きによって生きた魚になる。

魚を捕るのに天に向かって矢を飛ばそうと思うようなもの。方法をあやまると報われない。

習い方解説(五)

名越蒼竹

山色有還無(徐璣)
(山色有りや還た無しや)



書体=楷書

小筆が日常の筆記用具であった時代の人々は、基本的に毛筆の彈力性に慣れていたためでしようか、線の冴えが素晴らしいと思います。小さい文字でありながらフェルトペンで書いたような同じ太さの文字ではなく、拡大に耐えるしっかりした書き振りなのは驚きです。

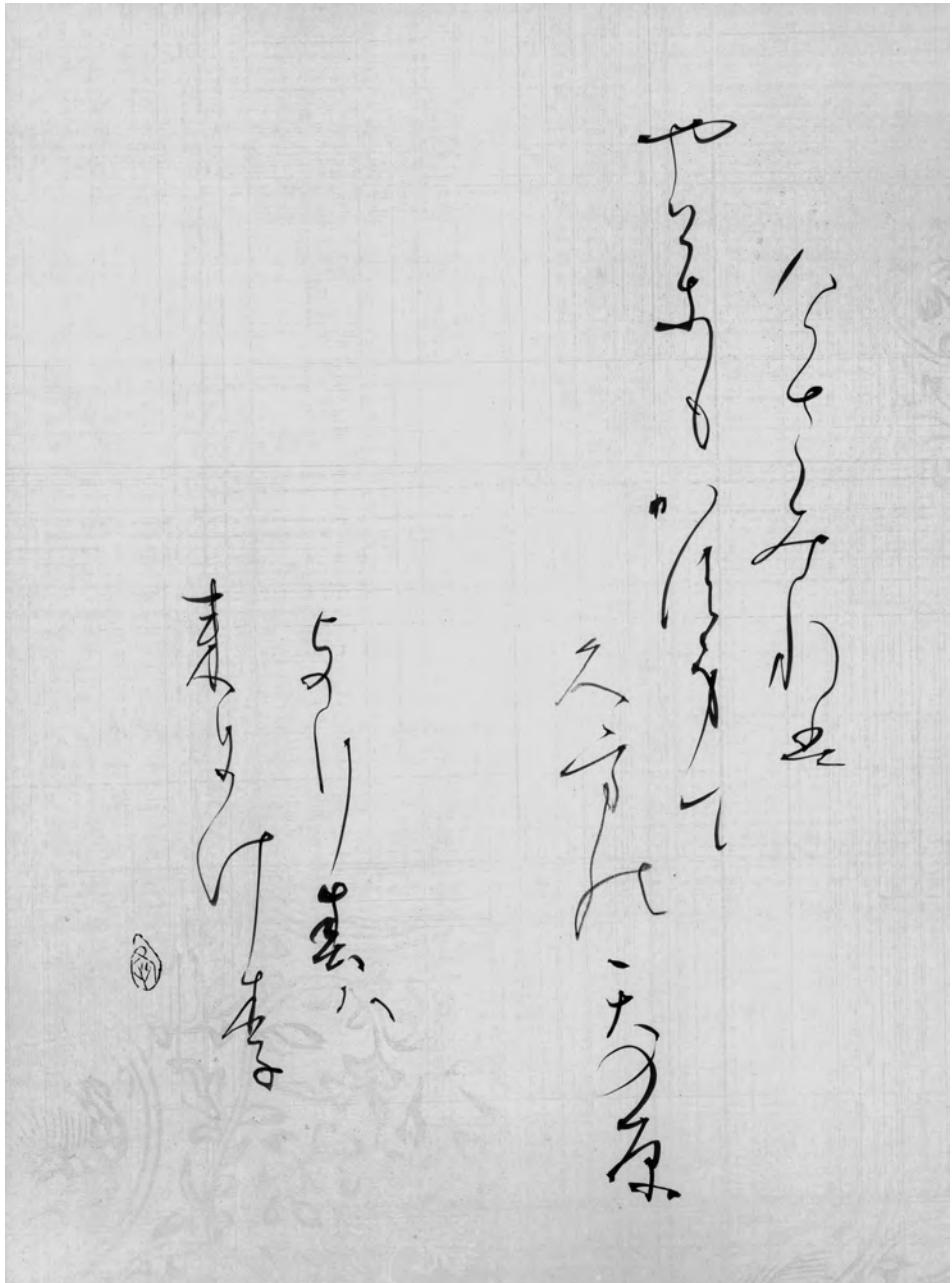
今回は細字の書き方で半紙に5文字を書くことにしました。いつも見ても感心してしまう趙孟頫(南宋)の「漢汲黯伝」をイメージしてしています。細字は起筆・終筆をいつもきちんとするのではなく、時にはすっと起筆することもあり、また行書に近い筆遣いも時折見られます。要是一定のスピードが必要ということです。筆先をよく利かせて小さいながらも伸びやかに運筆したいものです。

山色有還無 よみ(山色有りや還た無しや)

習い方解説 (五)

平川峰子

今朝みれば山も霞て久方の
天の原より春は来にけり
(源 実朝)



創作

今回の紙面構成は2つの集合体としました。2行目を少し高い位置から、行の長短と行間が同じにならぬよう注意して下さい。墨継ぎは前半の終わりで画数が少ない天の原に。久方を変体がなにに置き換える場合は1行目のけさより少し下げた位置が良いでしょう。書き出しのけさを漢字にする場合、かな作品に合う和様の字を字典で調べることをおすすめします。

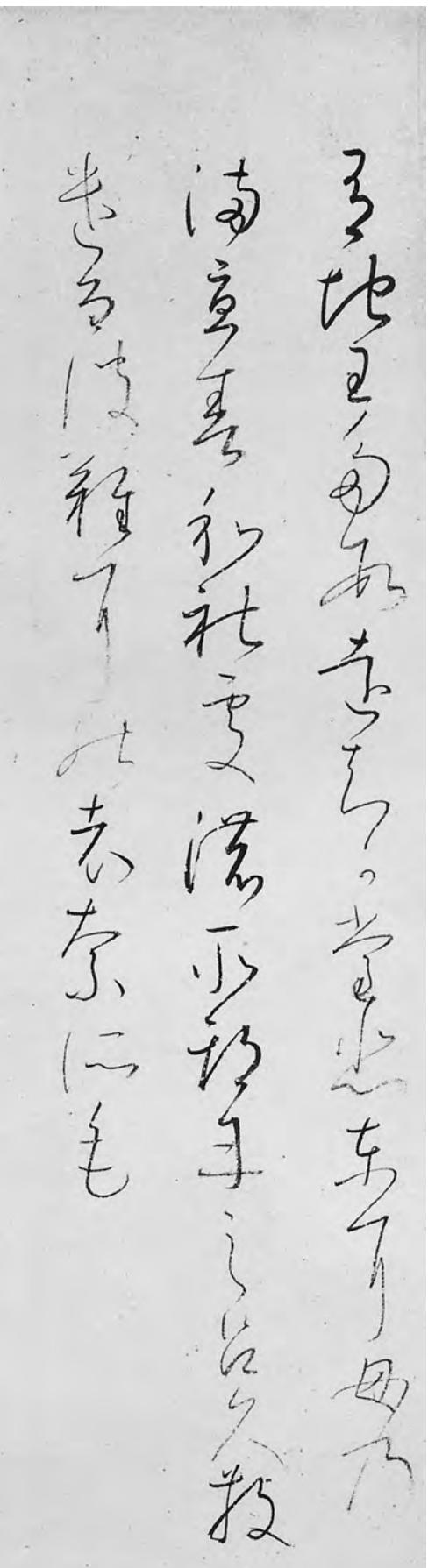
墨量の変化で潤渴を強調すると立体的な美しい表現が出来ます。料紙によっては、いつまでも渴筆にならない場合があります。途中、反古紙で墨を取りながら書いてください。創作の基本は何といつても古筆にあります。折にふれて鑑賞し臨書することです。線質だけでなく気品や優美さを創作に生かしてください。

よみ方 け(介)さみれば(盤)やま(萬)もかす(須)み(身)て久方の(能)
天の原よ(与)り春は(八)来に(尔)けり(李)

かな規定 秀級以下 【三月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて 32センチ・よこ 12センチ)

(掲載写真の和歌を全文、または部分(二寺以上の連綿)を臨書する。)

高野切第三種
(掲載写真縮小 93%)



よみ方 う(有)ち(地)わ(王)た(多)す(数)を(遠)ち(知)か(引)た(堂)ひ(悲)と(東)に(耳)も(母)の(乃)／＼ま(満)す(春)わ(和)れ(礼)
そ(處)の(濃)そ(所)こ(期)に(由)こ(由)／＼さ(散)／＼け(遣)る(留)は(波)な(難)に(耳)の(能)は(者)な(奈)ぞ(所)も(母)

かな条幅規定【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

奥田瑞舟選書

習い方解説 (二)

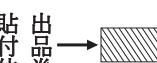
奥田瑞舟

遠き世の夜半に降り積みし雪の音の
つづつひびくじとあしきゆゑ

(安田章生)
卷子作品を書く時、起承転結を

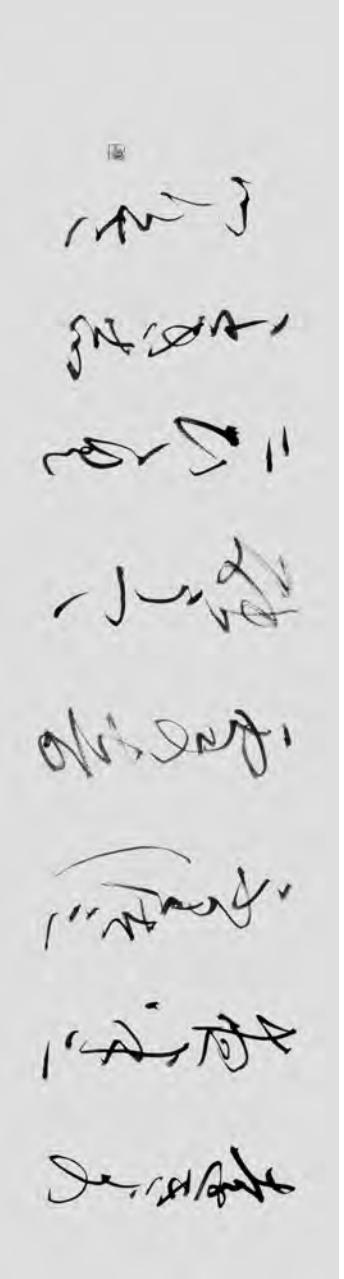
考えますが、大字横作品も、転と
結部分の工夫は大切だと思います。
漢字・変体がな(かなに調和する
字形が大事です)を使い盛上がる
所を作ります。結は落款も含めて
収める重要な作業をします。

創作



出品品
貼付位置

*より形式に限る



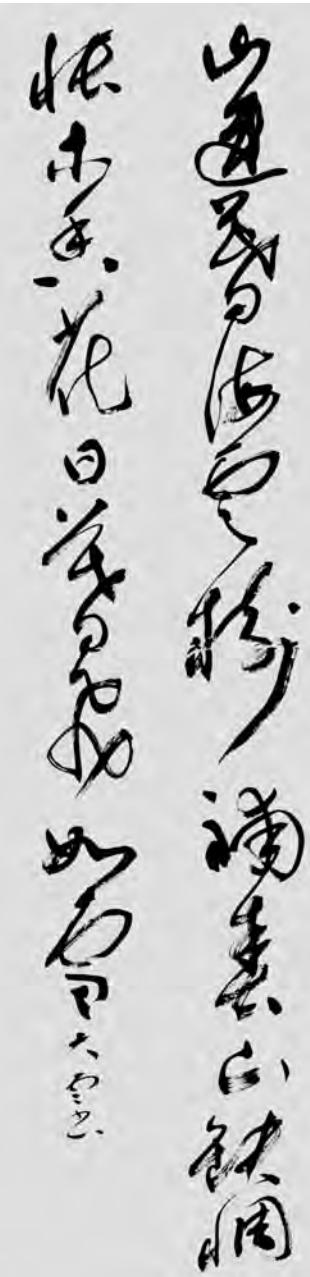
よみ方 遠きよの夜半に(1)ふら(里)い(徒)み(1)し雪の音の(能)
うつつ(へ)ば(1)ひ(ひ)(へ)(風)いとあこ(花)つけ(介)や
よみ方 遠きよの夜半に(1)ふら(里)い(徒)み(1)し雪の音の(能)

漢字条幅規定 初段以上【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

辻元大雲選書

習い方解説 (五)

辻元大雲



山連暮海雲

(山は暮海の雲に連なり)

樹補春山缺

(樹は春山の欠を補う)

惆悵木香花

(惆悵す木香の花)

日暮飛如雪

(日暮飛んで雪の如し)

書体=自由

春の情景を春愁の想いを込めて
詠った五言絶句です。

20字を半切2行にまとめるのは
やや難しさがあると思いますが、文
字の大小長短など変化させていろ
いろ工夫も出来ます。参考例は連
綿草で前回よりも更に上級の表現
としました。筆脈の流れを途切れ
させずリズムよく運筆することが
肝要です。

*たて形式に限る

習い方解説 (五)

坂本素雪選書

漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切



坂本素雪選書

漢字条幅規定 秀級以下

【三月十五日締めきり】用紙

小画仙紙半切

漢字条幅規定 秀級以下

【三月十五日締めきり】用紙

小画仙紙半切

書体=自由

精神清くして知明らかに知ら
ぬことがない一の意。少し難しい
かと思いましたが、4月から始め
たとしても大分書けるようになっ
たかと判断しました。字形と運筆
に変化をつけて書作して下さい。
「神」=扁と旁の間隔に気をつけ
て最終筆でバランスをとる事。
「清」=青の部分左側に重心を掛
けて月の右側を広くして収める。
「智」=縦長にならないように
「明」=月の下部広くして安定感
をもたせましょう。

神清智明
(神清く智明らか)
(作者不詳)

習い方解説 (五)

小伏小扇

森鷗外の山椒大夫の冒頭部分です。

越後の春日を経て今津へ
出る道を珍らしい旅人の

一群が歩いてくる

一群が歩いている

母は三十歳をこえたばかりの
女で二人の子供を連れている

伝統的な文字による縦書きの美しさ
を学ぶと心も豊かになります。

ゆったりとした気持で、伸びやかに
書く心がけが大切です。

越後の春日を経て今津へ
出る道を珍らしい旅人の
一群が歩いてくる
母は三十歳をこえたばかりの
女で二人の子供を連れてくる

山椒大夫より 小扇書

※落款を必ず入れる。
(自分の名前を入れること)

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

今月の

ホープ作品
各部総評 No. 656

ベン字部 師範 吉田 ノリ
氣字大にして、流れも美しく、
豊かな情感が溢れる。落款まで布
置も見事。温雅で格調高い作品。

◎ベン字部総評 漢字とかなのバ
ランス、行書で良い作品が多く大
変良かった。年初にあたり各自の
目標を目指し研鑽を。（和楓評）

鳥啼く聲す夢やませ
見よ明け渡る東を空色
映えて沖へ邊に帆船群
れ居ぬ鶴のうち

鳥啼歌
ノリ書

漢字条幅部 師範 鷺山 美梢
柔らかな筆致を生かし、潤滑の
バランスよくまとまる。安定した
雰囲気だがもう少し盛り上りを。
◎漢字条幅部総評 2行書きの全
体バランスは左右の布字構成が大
きく影響する。1行4字書きは上
下の関係に注意を。（大雲評）

現代詩文書部 特選 鷺山 美梢

文字を丁寧に扱い、筆に気持ち
をのせ、筆線は冴え、文字造形も
しっかりと格調高い作となる。
◎現代詩文書部総評 字形を変に
歪め新しい表現と勘違いしないで
着実な古典の勉強を。（石雲評）



かな条幅部 師範 鷺山ゆかり
おもねることのない筆致は格調
ある作品を生んだ。2行めの大胆
な動きは全体を支える魅力です。

◎かな条幅部総評 漢字野と変体
かな質に誤字多く残念。知つてい
る筈の字も確認を。印は作品の大
きさとバランスよく。（明子評）



前衛書部 特選 前島登代子

墨色の変化と構成が冴える。書
の美的可能性が全面に表現されて
いてすばらしい作品。
◎前衛書部総評 多種多様な作品
が多くエネルギー感を感じ、
前衛書の世界が広がる。（美津江評）

かな部 師範 宇田川春華
間の取り方が美しく、行の流れ
も滑らか。変体がなの用い方に明
快な意図が窺え堂々と個性的です。
◎かな部総評 独自で創作をする
場合、かな連綿法には基本のル
ールがある事を知つてほしい。古
筆をしっかりと観察を。（洋子評）

漢字部 師範 富田 瑞翠

石門頌或いは木簡あたりが土台
となつた作品。超濃墨による渴筆
が深みのある線質を生んだ。

◎漢字部総評 同一支部、同一書
風が常の傾向だが今日は2、3変
化が見えた。古典をふまえての創
作が行き着く所だろう。（翠風評）



今月の

特選 優秀作品研究部 別研究（特選）

現代詩文書
（大拙社）

畠中成山 「吉田重俊の句」



畠中成山書

70×135cm

◆激しいタッチで体当たりの気風を感じさせる作。下部の落款が一軒氣を鎮めてくれる清涼感を醸し出す。

（大雲評）

◆構成、筆使い群をぬく。字形の配置で上部に漢字がそろったのが気になるが、潤渴で変化をつけてみては。

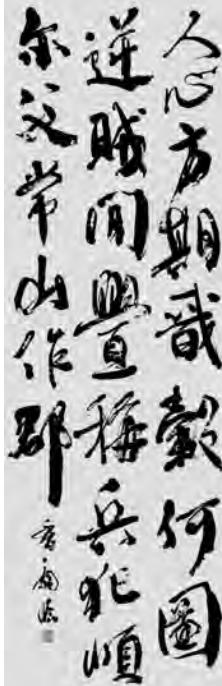
（蒼玄評）

◆筆法が多様で、多彩な線質が交錯し、曲線と直線を巧みに用いて、躍動感に溢れ素晴らしい。

（萬城評）

◆2本の筆での表現か、複雑な墨色が美しい。行頭が揃い、下の余白の形が効果的に雄大な作品です。

（明子評）



臨書

（大雲）

宮原香扇

「祭姪文稿」

173×55cm

宮原香扇臨

◆圧倒的な重厚さで迫ってくる。 気力と筆力共に充実した見事な臨書。 頭真卿の書の魅力を捉えた作。

（萬城評）

◆やや混み合う感の3行書きだが、 気迫ある筆致に圧倒される。筆者の呼吸が身近に感じられる力作。

（大雲評）

◆頭真卿の懐の広さをよく表現している。祭姪文稿の感情のたっぷりからくる字形のゆがみは今一步か。

（蒼玄評）

◆臨書の意味をあらためて考えよ。と課題を突きつけられる思いがする。かなにとり込みたい感覚です。

（明子評）

臨書

（千葉）

平野笛舟

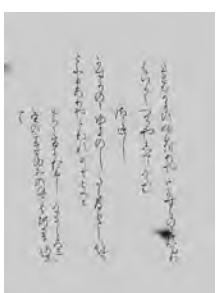
「小島切」



平野笛舟臨

29×177cm

部分拡大



◆黄土色にボカシの点在する料紙を上手に生かし、上下の余白のバランスもよく着実安定の臨書作。（大雲評）

◆極細のリズミカルでのびやかな線が見事に再現された臨書。原寸大臨書に習熟した手腕が窺える。（萬城評）

◆空間を優しく包み込むような字形をよく表現してよどみなく流れ。後半部少し墨量が多かったか。（蒼玄評）

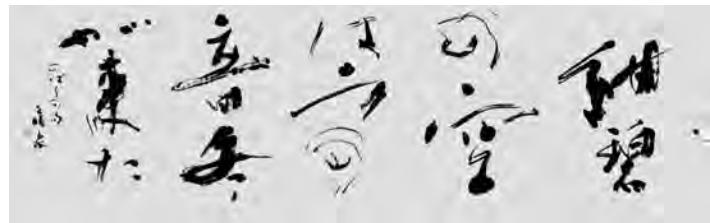
◆この古筆を完全に掌中に納めて、悠然と書かれた時代に遊んでいる世界です。和みを沢山頂き感謝。（明子評）



田村紅沙書

178×60cm

「波戸辺のばらの句」
西川藤象 (もくせい)



西川藤象書

56×174cm



174×55cm

(千葉) 竹浪叙舟 「祭姪文稿」

◆紙の筆の切れの良さが目に鮮やかで、上部の飛沫も大きさを表現している。中央の直線は固かつたか。

(蒼玄評)

◆上部の鮮烈な筆致から重厚な中央から下部へと通貫する気迫があり美しい。下部に余裕があれば尚。

(大雲評)

◆紙の筆の切れの良さが目に鮮やかで、上部の飛沫も大きさを表現している。中央の直線は固かつたか。

(蒼玄評)

◆上部の飛沫を墨だまりに立体感があり美しい。中部は円と線の交錯が美しい。下部に一考要すか。

(萬城評)

◆3つの塊の軽重バランスが絶妙です。限りなく奥行きを感じさせて、広い空がイメージされて楽しい。

(明子評)

◆3つの塊の軽重バランスが絶妙です。限りなく奥行きを感じさせて、広い空がイメージされて楽しい。

(大雲評)

◆塗沫部分を再構成し成功。重厚な線で堂々たる一行書。余白が効果的に明るい作品。着実な臨書。

(萬城評)

◆この形式には文字数がやや多すぎた感あるが、率直な取り組みに好感が持てる。更に大胆な運筆を。

◆渴筆と余白の部分が全体の明るい爽やかな表情を醸し出しています。強弱の呼吸も楽しい臨書です。

(明子評)

◆思い切った1行の表現、細字は良く目にするが、大字に挑戦する姿勢が素晴らしい。更なる変化を。

(蒼玄評)

創作の部	漢字	前衛書			現代書		
		篆刻	前衛	漢字	現代	篆刻	漢字
臨書の部		21点	18点	6点	4点		
漢字		23点	29点	34点	5点		
かな							
かな							
前衛	「前衛」	高崎「かな」	飯島「かな」	麗澤「かな」	大雲「かな」	大雲「かな」	西川「かな」
漢字	「漢字」	竹浪「漢字」	佐野「漢字」	江本「漢字」	神谷「漢字」	山本「漢字」	西川「漢字」
篆刻	「篆刻」	遊山「篆刻」	紺野「篆刻」	樹原「篆刻」	佐藤「篆刻」	田子「篆刻」	藤原「篆刻」
現代	「現代」	遊山「現代」	紺野「現代」	樹原「現代」	佐藤「現代」	田子「現代」	西川「現代」
書	「書」	遊山「書」	紺野「書」	樹原「書」	佐藤「書」	田子「書」	西川「書」
部	「部」	遊山「部」	紺野「部」	樹原「部」	佐藤「部」	田子「部」	西川「部」
総出品点数	87点						

漢字研究部
(祭姪文稿)

選評 大野祥雲

今月のホープ作品



富田 瑶翠



万綾祥洋裕貴
美秀美譽子子大

美紅靜千多恵
枝和雨峰子佳泉

白星魯蒼
璫香右扇春風

桂雅翠翠美
子悠江朋楓雲

漢字研究部 特選 富田 瑶翠
変化に富んだ線が紙面にしっかりとくい込
み気脈貫通の作。期は偏と旁の間にもう少し
白がほしかったが、他の3字の光で輝くこと
になる。特に穀の堂々とした構成、最終画の
筆圧とひきぬきの処理は見事。落款もつまい。
◎漢字研究部総評

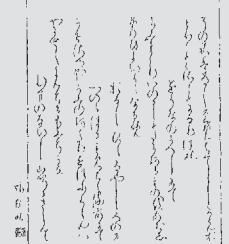
作品を見せていただいた。A.写実的臨書と
でもいえる作品が上位の方が多い。文字造形

を自分のものとし、用筆・運筆法を学んだ作
品は立派。B.主観的臨書。これも大切だが、
折角の祭姪。このよさを充分生かし、その上
で表現力を高める学書であっても遅くはない
のではないか。C.創作のような作品も多い。
書を学ぶ者にとって、何より大切なのは古典
の臨書。基本を身につけ、線を鍛えること。
なお、祭姪の四字句は生かしたらどうか。

かな研究部
(小島切)

運評 勝山初美

今月のホープ作品



浪川秋花

◎かな研究部総評
今日は誤字も少なく、良く観察して書けていたと思います。回転の良い強い線を表現するには筆選びも大切です。弾力のあるイタチ毛などが良いでしょう。

かな研究部特選 浪川 秋花	
寿雅幸	草シ純 ゲ 子芳雲
秀	幹万玉 里 生子江
月習雲沼和村 岩岩犬礫石青 作 惠博道清正甘玉 峯子石蘿子雨枝	秀高梓松や長A如上石澄もA華大硯上奥う紅高一白翠澄 水井江村ま月I月泉習春くI祥雲水泉田る風崎心珠柳春 富倉茂伊増藤松塚深青伊加堀宮中小飯福松西蒔近浪 澤田本木東田本木丸堀木藤藤切澤村林高田浦岡苗池川 ち愛清藤毒雅幸草ケ純幹里玉弘真柳秋 子子径芳子子子石洗蓮子芳雲秋子風生子江子紀芳花
佳	高蓮竹清千た玉玉高耕生一童上紅 井紅扇月葉か松川崎雲大宮泉泉瑠
吉	土蒼高彩福竹秀竜玉上高 氣書原崎山扇水泉松泉真
作 由 り 松	吉遊山大松浜橋野根土鶴土高須鈴杉坂齋小北岸川河門加小大梅梅海生子 田佐村和重野本中津井田谷木田木峰村田崎岡藤川沢山津木方田佳 英紀翠永紅喜飛弘翠雅つ代香睦祥里舞加欣東綾星信龍彩淑久代簞美春春子華 か雅秀江景雲霞子龍枝玉裕子舟心風美夢子子子美扇子惠香江子子山子華
入	東菊こ玉墨上前土長千前東詢一生大や澄幕た竜若澄千八松澄竜大蒼清墨附英大大こ耕書安玉も清陽誠竜耕椿翠泉台瑤陵 伯月だ川宣泉橋月葉向扇草大阪ま春張か泉松春葉生村春泉阪陽月花中峰雲阪こ雲游波藻く月陽和泉
阿熱藍會 部海澤木 美津桃白勇 江翠珧介	山宮宮湊真本別平平春畠野中田田高高菅新波篠鹿齋後込小小国吉河金加加小小荻岡江岩入今石安浅川 本崎川庭多府山山山村村中玉橋橋橋沢行谷田田藤藤山林口峰瀬合岡藤瀬寺寺 妃夕さ百内惠世翠良喜美嘉智理彩和秋翠晴よ久玉久茂陽悠貴み豊 真英洋美ケ和信優だ彩勝芝陽一春良哲幸賢恵雅合獨鑑美志翠良喜美嘉智理彩和秋翠晴よ久玉久茂陽悠貴み豊 紀明子子枝子華美香詢琴華子子苑雲泉泉子子華子江香泉秋艸江子佳雨敬美陽美 か雅秀江景雲霞子龍枝玉裕子舟心風美夢子子子美扇子惠香江子子山子華
人	春竜高澄芳や菊う京翠館椿た千大蘭大汐詢う幕大生白梓琇樹大伏澄秀梅こ誠澄秀高千八彩花誠八華春生有千 大洞泉崎春蘭ま月る橋吟山翠か葉雲鼎雲風扇る張阪大扇江韻原阪華春明大和春明真葉街舞和戸祥汀大秋葉 佐櫻酒齊齊斎齋近近小小河河高小黒久工木北岸菊神川加葛小小大梅鶴植岩岩猪井伊伊市市板石石石生池安新天 佐々田井藤藤山賀藤山林野野武柳保藤村本池田元納野熊川森西原澤田崎上又上藤藤川川垣田黒川川駒田藤井羽 木和龍知静江つ裕松閑笙晃白惠玄竹智香順恵萩善典茱順恵代輝喜一虹琴美洋都理芝敏悦順紫青喜春洋晴萩楊翠藤 子貞子枝彩え功美春窓洋代董子城か葉美蘭子舟西高子子美扇子子扇雲子子子子鳳子台子洞花渓風雪賣子
外	京昌も琇書や華椿玉五もあ紅宗調春生澄華京木大泉大京樹洞大は麗青高白遊玉千も大た大泉春玉大澄詢高誠弘八昆千た 遷橋苑く韻游ま仙翠川葉くか苑苑布汀大春仙橋曜阪会阪橋原書阪せ澤連珠雲川葉く阪か雲会汀松阪春局崎和舟雲陽葉か
118名氏名略	吉吉吉吉遊山山安森森森本茂茂武宮宮増前堺堀細北廣春早濱長沼丹西中戸戸徳権種辻田田高鈴神新済七穴紫狼 名田田種川佐口口嶋本田田吉木木藤鼻満眞川美喜由 佑翠藤幸一律雪砂悦睦藤明真絶意翠秀子春泉子子幸春艸雪織子翠心子人峰綾舟風峯雲子子衣枝華子枝光子美子月右